

第2 谷中霊園の現況

1 谷中霊園の概要

谷中霊園は、台東区の北西部、日暮里駅南側の台地上に位置し、区部にある都立霊園の中では3番目の大きさの霊園である。

本霊園は、明治維新の戦禍で荒廃していた天王寺⁽⁷⁾の敷地等を東京府が引継ぎ、他の区部霊園と同じ明治7年(1874)東京会議所⁽⁸⁾に谷中墓地として開設させたのが始まりである。その後、東京府、東京市に移管され、名称も谷中霊園と改められ現在に至っている。

霊園の境界は非常に入り組んでおり、周囲の寺院墓地や住宅と道路などを隔てずに直接接している部分が多い。また、霊園内に他の寺院の墓所が飛び地として混在しているなど、霊園の形状は複雑である。

総面積は約10.3haであり、およそ半分が墓所としての区域である。昭和35年以来、将来の公園化を目指して、空き墓所の貸付を停止している。

園内は、墓参者だけでなく、近隣居住者による日暮里駅への通勤や通学の道として使われているとともに、散策の場などとして多くの人を訪れている。

表 - 1 谷中霊園の概要

所在地	台東区谷中七丁目他			
沿革	【霊園以前の状況(江戸時代)】 天王寺及び寛永寺の寺領			
	墓地の開設	明治7年9月1日		
	東京府への移管	明治9年5月22日		
	東京市への移管	明治22年		
	墓園の都市計画決定	当初	明治22年5月20日	
		最終	昭和3年12月24日	
	公園の都市計画決定		昭和32年12月21日	
		昭和51年7月13日		
	墓所の貸付停止	昭和35年8月		
面積	総面積	:	102,537 m ²	
	墓所面積	:	51,491 m ²	
	墓所可能数	:	6,516 箇所	
	空き墓所面積	:	1,650 m ²	
	空き墓所数	:	330 箇所	
使用者数			6,183 人	
埋葬体数			47,834 体	

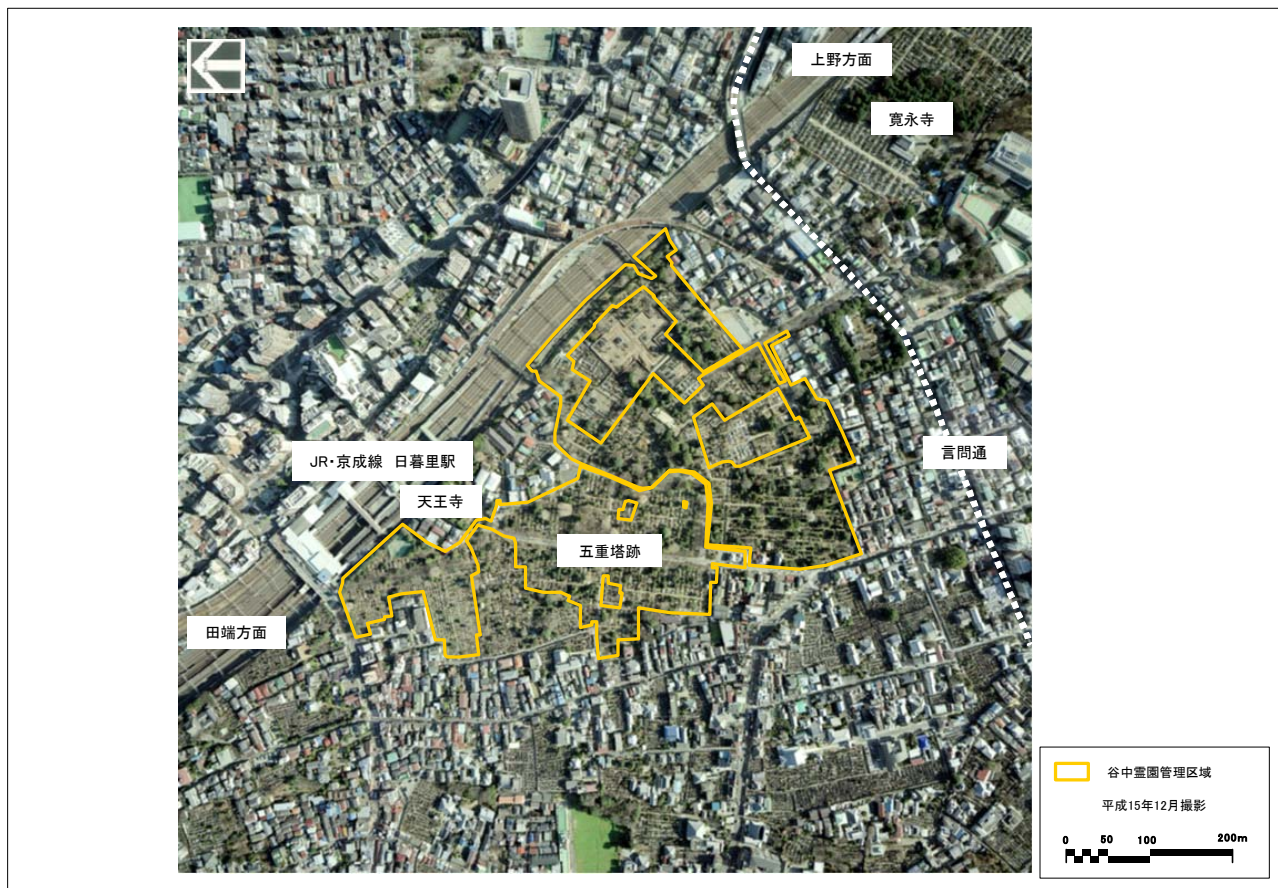


図 - 1 谷中霊園位置図

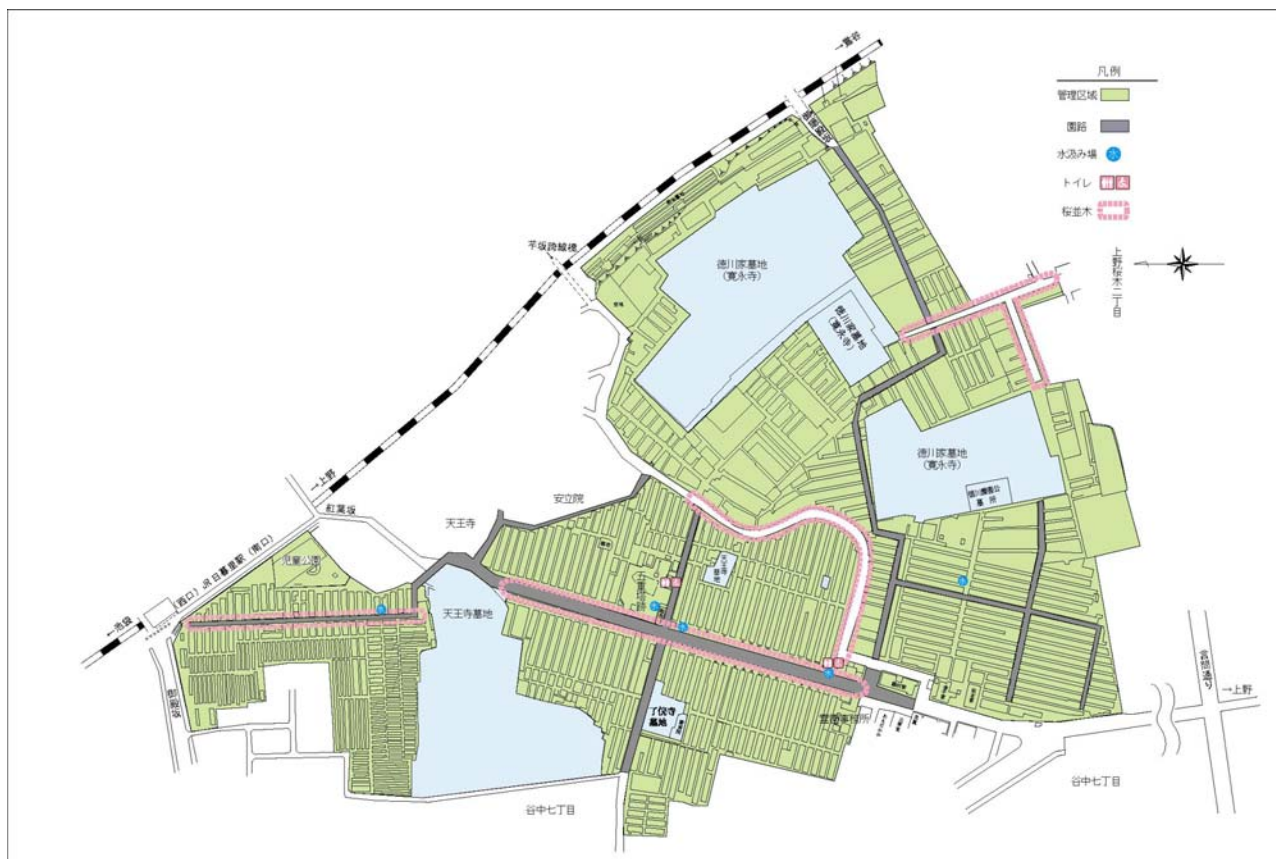


図 - 2 谷中霊園平面図

2 緑環境と谷中霊園

谷中霊園は武蔵野台地の東端に位置しており、霊園の東側は、台地と東京低地との間の崖線⁽⁹⁾になっている。

崖線は、飛鳥山から田端、日暮里を通過して上野へと続いており、この崖線とその周辺の台地上にある緑は日比谷、芝、品川へと連なり、区部における南北の緑の骨格軸を形成している。谷中霊園一帯は、その軸線上に位置している。

台東区の緑の基本計画によると、谷中霊園は、寛永寺⁽¹⁰⁾や上野恩賜公園などと一体となった拠点の緑として、環境保全、レクリエーション、景観、防災など、さまざまな役割を果たす重要な緑と位置づけられている。

霊園内には幹周りの長さが5mを越える樹木をはじめ、地域の景観を形づくっている大木が多く存在しており、都心部に残された貴重な緑の空間となっている。

主要な園路沿いには桜並木があり、春先には桜の名所として多くの人出がある。

なお、谷中霊園は、東京都地域防災計画⁽¹¹⁾に基づく避難場所⁽¹²⁾にも指定されている。

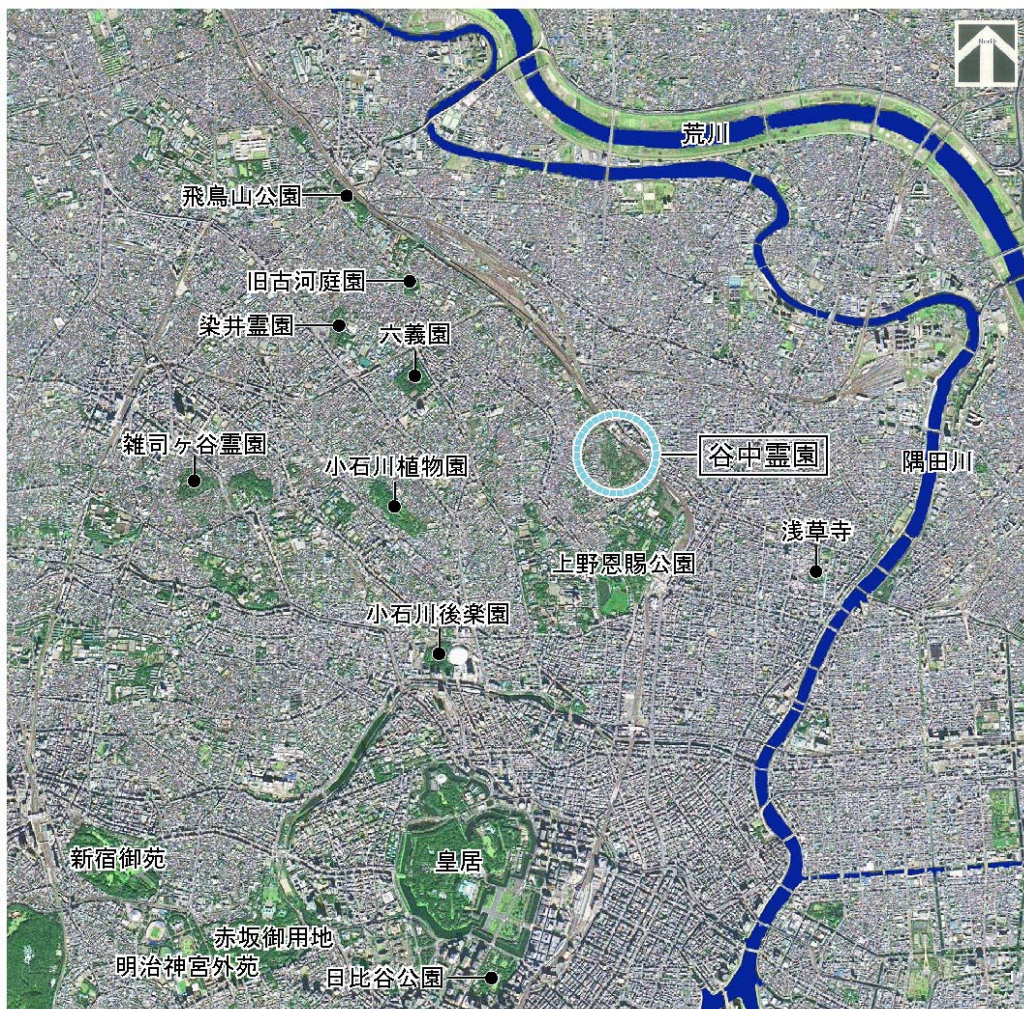


図 - 3 武蔵野台地東端沿いの緑の分布

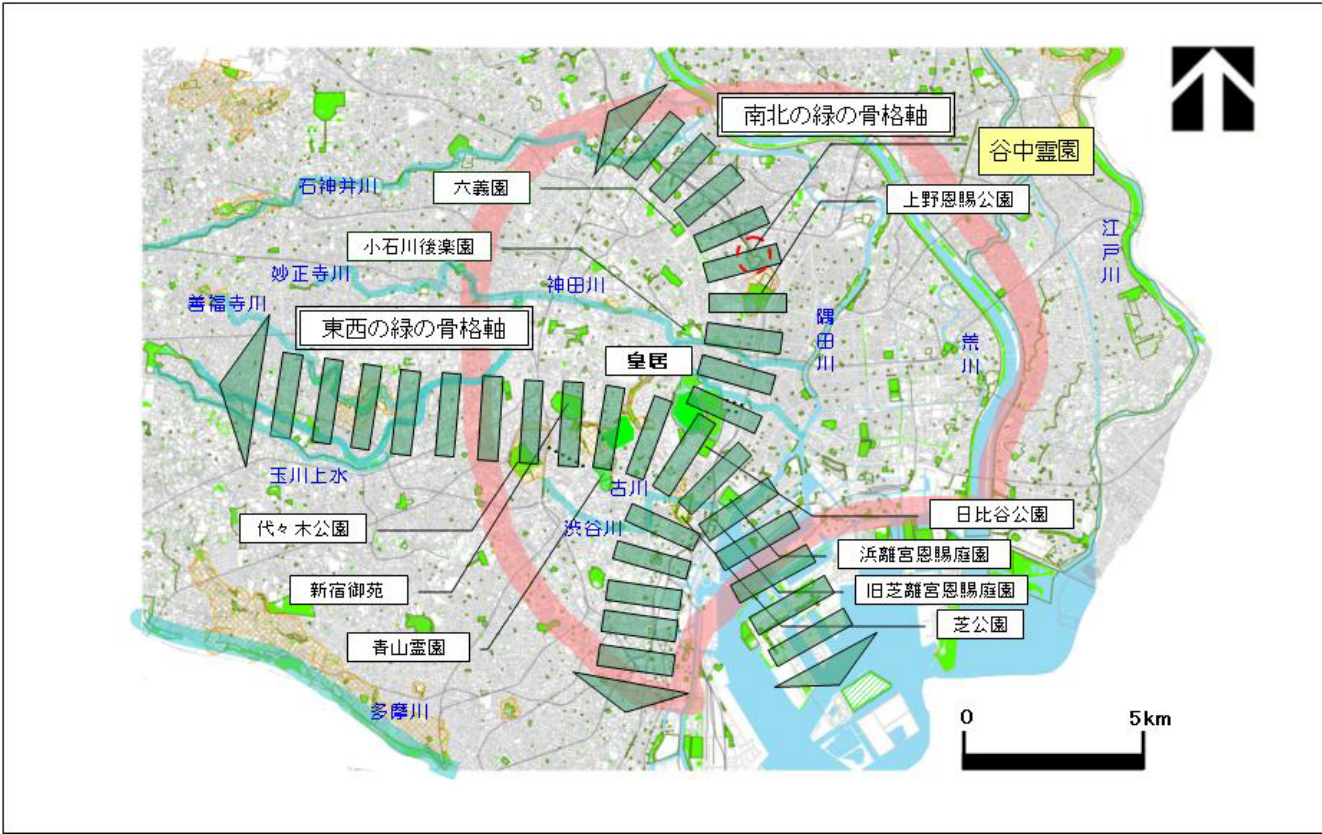


図 - 4 南北の緑の骨格軸



図 - 5 台東区における谷中霊園の位置づけ

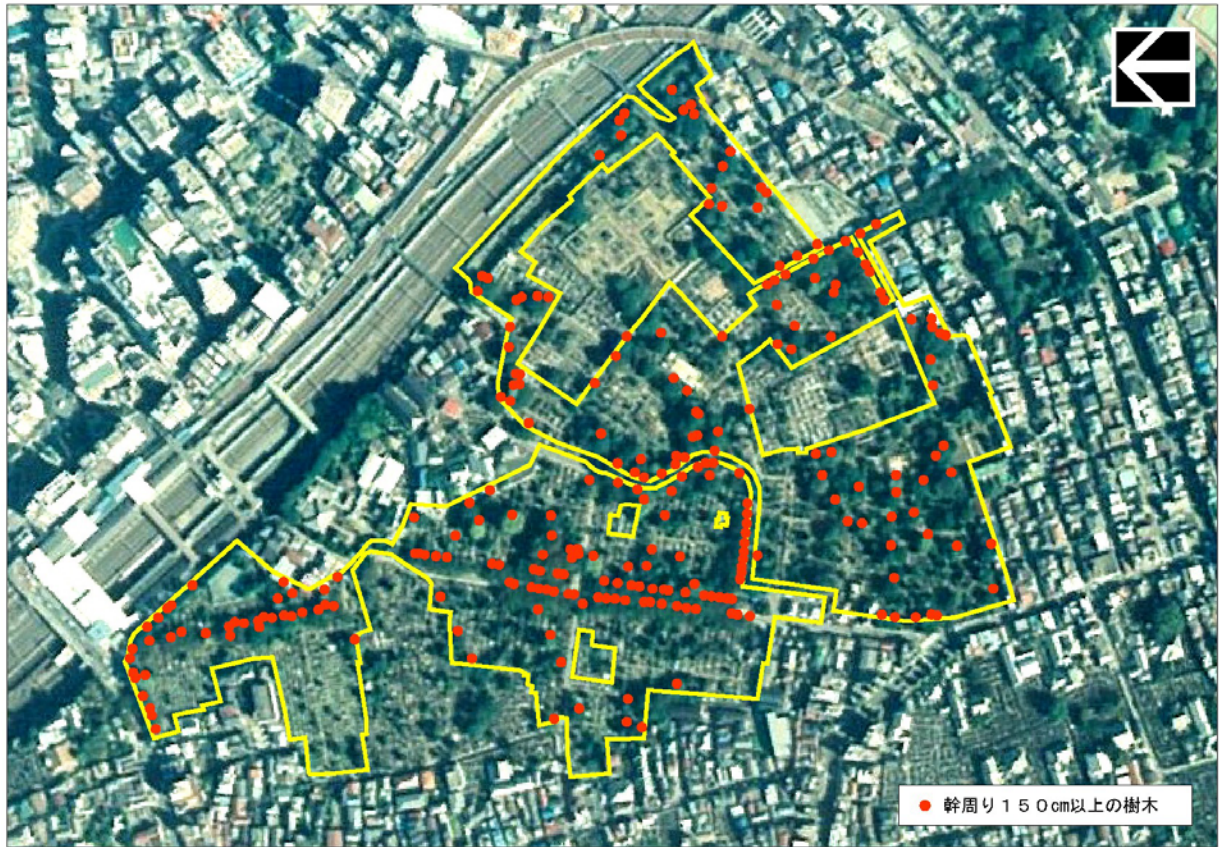


図 - 6 園内の樹木の分布



緑の多い園内



園内のイチョウの大木



崖線の緑

表 - 2 幹周り 150cm 以上の樹木の本数

幹周り ⁽¹³⁾	本数
150cm 以上 200cm 未満	1 4 3
200cm 以上 250cm 未満	5 9
250cm 以上 300cm 未満	2 9
300cm 以上 350cm 未満	9
350cm 以上 400cm 未満	4
400cm 以上	4
計	2 4 8

表 - 3 幹周り 150cm 以上の樹木の
出現数上位 10 種

樹種	本数
ソメイヨシノ	1 0 8
スダジイ	3 8
エノキ	2 4
イチョウ	1 5
ムクノキ	1 5
ケヤキ	1 3
クスノキ	9
サワラ	7
シラカシ	4
ヒノキ	3

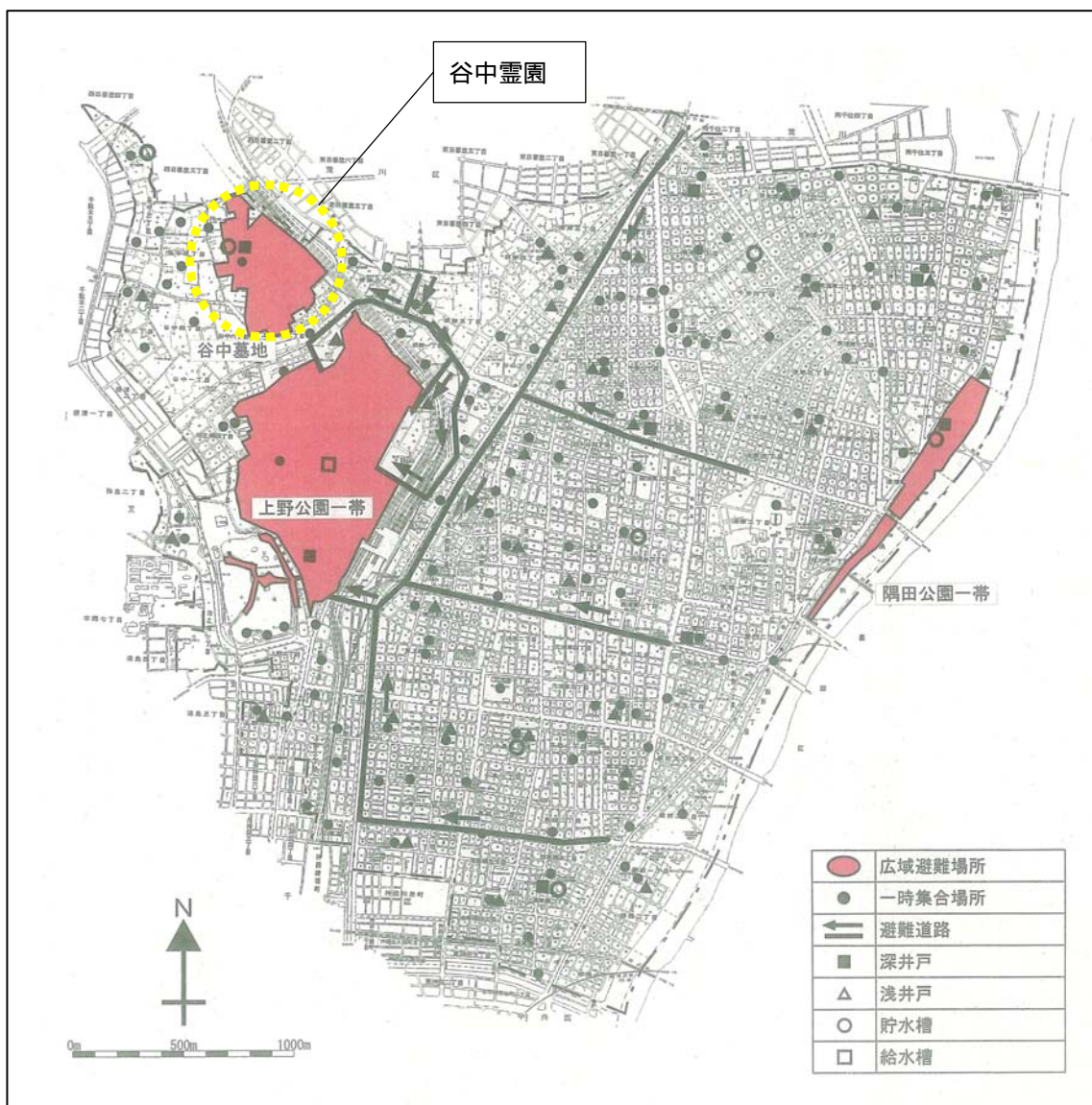


図 - 7 台東区内の防災・避難施設